

第3回碩田中学校区新設校開校準備委員会 会議要旨

日時：平成27年11月17日（火）19:00～20:30

場所：大分市教育センター・202 研修室

○出席者 17名

1. 開会のことば

2. 委員長あいさつ

3. 議事

(1) 経過報告

- ・第3回開校準備委員会までの経過について説明する。

(2) 各専門部会からの報告・協議について

①報告及び協議

- ・各専門部会より、報告と協議を併せて20分程度の時間を設定する。

【学校部会】

- ・資料2～10ページを基に、校名案、制服、メモリアルコーナー、校歌・校章の進捗状況、今後の予定（案）について安東委員から説明する。

<主な意見>

〔委員〕12月PTAでお知らせする内容だが、校名については4校が統一的に同じ内容を保護者にお知らせする方法なのか、もしくは4校が作成してお知らせすることになるのか。

〔委員〕学校部会としては、4校にお知らせする内容が違っていると、取り方の違いが出てきてはいけないので、統一したものを4校にお知らせをして審議していただければいいのではないかと考えている。

〔委員〕268案出た校名の中で、子ども、保護者、教員、地域住民と分類したときに、どういう内訳になるのか。

〔委員〕各校区でまとめてご提案いただいているので内訳は分からない。校区ごとに、この校名について何人の応募があったかということは分かる。

〔委員〕校名を決めるにあたって、大多数の人が「碩田」を残したいというのは分かったので、あとは少数意見で出ている「未来」や「希望」などの言葉を追加していく必要があるかどうかこの場で議論しておかなければいけないと思う。

〔委員〕最終的な結論は「碩田」の二文字は残し、全国的に認知度や知名度が高まるよう、かつ新しい歴史をみんなで一緒に作り上げていこうとする未来志向的な思いを共有できるようなことばを足すなどして、教育委員会で趣旨を踏まえながら検討してはどうかと思う。

★ 確認事項

○校名について、圧倒的多数であった「碩田」の2文字については、必ず使用することを前提に、全国的に認知度や知名度が高まるよう、かつ、未来志向的な思いを共有できるよう、ことばを足すなどして教育委員会において検討する。

【学校支援部会】

・資料11～16ページを基に、通学路とPTA組織について山岡委員から説明する。

<主な意見>

[委員] PTA組織について、素案の作成をPTA会長を中心に行うということや碩田中学校PTA組織を基本として協議するとのことだが、PTAの方と学校関係の教師の意見について、今後どのように検討していくのか。

[委員] 4校のPTA合同での検討会をしていく中で、一度協議をしたことを各校、各PTAに持ち帰って、各校で学校関係者、先生方、保護者の方々に一度協議をしていただいて、それをまた持ち寄って4校で協議を進めていくという流れで話を進めていくように検討している。

★ 確認事項

○異議なく、承認された。

○今後は通学路とPTA組織について、さらなる審議を行う。

【施設部会】

・資料17ページを基に、施設開放や備品（家具）などについて岩本委員から説明する。

[委員] 施設開放について、地域連携室にあるキッチンなどの利用方法までは議論がされていないのか、それとも地域連携室は開放しないということになっているのか。

[委員] 部会の中では、地域連携室についてはまだ具体的なところまで話はしていない。ご意見を部会に持ち帰って、話をしたいと思っている。

★ 確認事項

○地域連携室の施設開放、利用方法についても、今後施設部会において検討する。

②その他関連する事項の協議

- ・予定していた議題以外に、各部会または委員から関連する事項の協議の申し入れはなかった。

(3) その他

- ・事務局より、次回の日程について説明する。

★ 確認事項

○第4回の開校準備委員会は、2月16日（火）の19時から大分市教育センターの302研修室で開催する。

4. アドバイザーからの助言

- ・アドバイザーである日本文理大学工学部の西村准教授より、助言をいただく。

【アドバイザーから】

- ・校名についてこれだけ多くの案が出て、このこと自体も非常に素晴らしいと思う。7割が「碩田」の名前にということなので、多数決以外の方法で決まるとなると難しい。ただ少なくとも、校名を決めるときにこういう議論があったということ自体素晴らしいことなので、今後、新設校が出来た後の子どもたちにもこの経緯を伝えてあげたい。
- ・制服に関しても多くのコメントが出ていて、それだけ多くの方々に関心があるということ、その関心の一つ一つを取り上げて、その一つ一つを大事にしながら決めていこうという姿勢が示されていることは非常に評価されることだろう。では、これだけ意見が出たら、今度どうやって決めていくかということとは非常に難しいことになると思うが、おそらく具体的な案を出して、その中で選ぶというようなやり方になるかと思う。
- ・メモリアルコーナーについて、単に、物を博物館のように陳列するだけのものではなくて、今後学校が続いていくなかで、小中一貫校の子どもたちが自分たちの学校の由来を知るきっかけになることが大事だと思う。
- ・学校を創るときに他都市・他地域での協議の様子を見ると、結局ルールが先にどんどん出来る。そうするとルールに縛られて、自由度がなくなっていくような地域が見られた。今の大分はまだルールがないので、他の地域にはない独創的な素晴らしい空間が出来るといった予感もするので、どんどん積極的にアイデアを出していただいて、進めていただけると嬉しい。

5. 閉会のことば